

平成26年6月20日(木)

老球の細道24

『ぬるま湯の中のカエル』

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

先日私の愛車の中にカエルが入っていた。「出て行きなさい!」と注意したら、「今、カエル」なんていうギャグをとばされたような気がした。

あちこちでカエルが見られる季節になってきた。カエルを熱い湯の中に入れるとピョンととび出してしまう。ところが、ぬるま湯の中に入れてやると、気持ち良さそうにいつまでも泳いでいる。そのぬるま湯を徐々に熱くしていくと、本来ならばとび出さなければならないのに、とび出そうとせずゆで上がって死んでしまうそうである。ぬるま湯に浸りきってしまったせいかな、とび出すタイミングを見失ってしまうのだろう。

私達も時として「ぬるま湯」と称される現状維持のマンネリ地獄に浸ってしまうことがある。現状維持は努力もすることなく、居心地は最高であるが確実に自分自身がダメになっていく。ニューカレドニア島に生息するカグーという鳥もそうだ。羽毛はグレーかかった白色、目の色は真っ赤、鳴き声は鳥のくせに子犬のような声を出すという。そして驚くべきことに鳥なのに飛べないのだ。天敵のいないこの島で、現状維持のままのうのうと暮らしているうちに鳥類としての能力が完全になくなってしまった。

かつてアメリカメジャーリーグ・パイレーツで活躍した桑田真澄投手はマリナーズのイチロー選手と対戦し、空振り三振で仕留めたことがある。当時39歳になった桑田投手は、普通であれば守りに入り、現状維持で満足する年齢だった。しかし、彼はさらに進化するためにメジャーリーガーに渡りチャレンジし続けた。日本でプレーしてれば、ベテランとしてリスペクトされながら現状維持で安泰できるのに。ぬるま湯には絶対浸らなかった。

イチロー選手を三振で仕留めた時、桑田選手はこんな言葉を残した。

「進化し続けているイチロー君との対戦を楽しみにしていた」

一方、イチロー選手のほうも今だにバッティングフォームが変わっているそうである。

イチロー選手曰わく。

「バッティングは生き物ですから。その時の筋肉のつき方によって、スイングは変わり、フォームも変わる。つまり、1カ所に止まっていることはできないんです」

歩みを止めない、絶えず進化しようとしている二人の野球天才アスリートの話である。

中体連、高体連も一息つき、徐々に現状維持のぬるま湯に浸りはじめていないだろうか。立ち止まらず、暑い夏に向かってカエルの教訓を思い出し「自分を変える(カエル)」チャレンジをスタートしよう。そのためには「Z計画」だ。人生で実現したいこと、学生時代に実現したいこと、夏休みにやってみたいこと等、バスケットボールのみならずあらゆることを洗いざらい書き出した「自分のやりたいことリスト」である。これに優先順位をつける。優先順位の早いほうからすぐに行動に移す。

すぐに始める。「而今」、今がすべて。この瞬間に全力を尽くす。「ヒマがない」は言い訳にはならない。時間は誰にでも平等である。時間があるからといって明日やろうでは遅すぎる。今すぐ、今日から行動開始。

次の言葉をあなたの部屋の最も目につくところに張っておいてほしい。

「明日やろうは馬鹿野郎だ!」